

（午後1時26分 再開）

○議長（土井裕美子君）それでは、再開いたします。

日程に従い、一般質問を行います。

順番4、14番 小西さん。

〔14番（小西政宏君）登壇〕

○14番（小西政宏君）今回は1項目でございます。端的に淡々といければなと思っていますので、よろしくお願いいたします。

通告は、事業のさらなる効率化に向けてということで、小さく二つ書かせていただいています。

一つ目は、紀の川橋本サマーボールについてということで、直近開催の総予算額、財源の内訳、そして、目的とゴール、そして、効果についての見解はということで聞かせていただきたいと思います。

次は、医療費無償化についてです。

こちらで、1年間で必要な予算はどれぐらい使っているのか、あと、目的と効果をどのように考えているのかということ、冒頭お聞きしていきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○議長（土井裕美子君）14番 小西さんの質問項目、事業のさらなる効率化に対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（北岡慶久君）登壇〕

○経済推進部長（北岡慶久君）事業のさらなる効率化に向けてのご質問にお答えいたします。

一点目の紀の川橋本サマーボールについてのおたただしですが、まず、直近開催の紀の川橋本サマーボールの総予算額ですが、今年、令和元年の開催費用は合計で2,520万7,667円であり、財源内訳は、市からの補助金が1,300万円、

市民協賛金300万円、企業協賛金400万円、繰越金347万667円、ブース出展料等その他が180万円とする予算を組みました。

次に、二点目の、目的とゴール、そして、効果についてのおたただしですが、まず、紀の川橋本サマーボールを開催する目的は、年に1度の観光の目玉となる事業として、市外から多くの人に橋本に来ていただくことです。

また、ゴールとすべき姿としては、市民協働しながら、盛大かつ安全につくりあげていく郷土の誇れるイベントとして、来場者、特に子ども心に将来にわたって橋本が刻まれるイベントとなることが挙げられます。

サマーボールを開催することの効果としては、今年で7回目の開催を迎え、来場者数が初めて5万人の大台となり、若者を中心にサマーボールが本市のプロモーションイベントとして定着し、多くの来場者を呼び込むことができ、本市の知名度向上に効果があったものと考えられます。

駐車場の確保など課題はあるものの、今後とも、本市の魅力ある風物詩の一つとして取り組んでいきたいと考えています。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

〔健康福祉部長（吉田健司君）登壇〕

○健康福祉部長（吉田健司君）次に、二点目の医療費無償化についてお答えします。

本市における医療費無償化の対象事業は、子ども課で所管している、子どもがいる家庭を対象とした乳幼児医療費、小中学生医療費、ひとり親家庭医療費の三つの助成事業と、福祉課で所管している、心身に重度の障がいをお持ちの方を対象とした重度心身障害児（者）医療費の助成事業となります。

まず、一点目の、1年間で必要な予算ですが、

令和元年度の当初予算は、乳幼児から小学校就学前の子どもを対象とした乳幼児医療扶助費で、7,253万3,000円、小学校から中学校修了までを対象とした小中学生医療扶助費で9,400万円、ひとり親家庭の18歳までの子どもとその保護者を対象としたひとり親家庭医療扶助費で5,386万8,000円、身体障害者手帳等をお持ちの65歳未満の方を対象とした重度心身障害児(者)医療扶助費で1億3,500万円をそれぞれ予算措置しています。

次に、二点目の各事業の目的ですが、乳幼児医療費等と小中学生医療費、ひとり親家庭医療費の助成事業については、子どもの疾病の早期発見と早期治療を促進することで、健康の保持と増進、健全な発育に寄与することです。

また、重度心身障害児(者)医療費の助成事業については、心身に重度の障がいのある方に対し、医療費を支給することで保健の向上に寄与し、福祉の増進を図ることです。

各事業の効果ですが、こども課所管の三つの助成事業は、子どもの健康増進や子育て世代の経済的負担の軽減などが挙げられます。

具体的には、前者は、医療費の一部負担を無償化することで、通院が容易になり、疾病の重症化を防ぐことが可能となることのほか、診察を通じて、医師からの育児指導や保護者が適切な受診行動を学ぶことにもつながります。

また、後者は、経済的に余裕がないと言われる若年層の家計を助けられることはもちろんですが、貧困家庭の受診控えを防ぐことも可能となります。

また、重度心身障害児(者)医療費については、身体障害者手帳3級所持者は入院のみとなっていますが、医療に要する費用の全てを助成することで、重度の障がいをお持ちの方に必要な医療を経済的負担を気にせず適切に利用することで、重症化を防止することが可能となります。

子どもに限らず、疾病を患った場合は、人は誰でも医療機関の診療を必要とします。その中で、各助成制度の存在は疾病の重症化への予防や早期発見につながることに大きな効果を発揮するとともに、本支援制度の継続的な実施が住みよいまちづくりを推進し、子育て世代や障がいをお持ちの方の定住促進につながっていくものと考えています。

○議長(土井裕美子君)14番 小西さん、再質問ありますか。

14番 小西さん。

○14番(小西政宏君) 答弁いただきましてありがとうございます。

まず、サマーボールのほうからお聞きしていきたいと思います。

もう7回を迎えるということですね。今まで本当に多くの方々がご尽力いただきまして、市の職員もそうですし、今年においては市民団体の方々と、本当に多くの方々のお力添えがあってこの7回を迎えられたなど、まずそういった、一定、感謝の気持ちといいますか、その方々がおっただいてやっていただいたおかげで、今この7回ができたなどというところはしっかりとお礼の気持ちをお伝えしていく中で、また質問していきたいと思うんですけども、まず、今回、前提としてしっかりとお伝えをしていきたい僕の思いとしては、このサマーボール、祭りについては、紀の川祭りのときのようになくなるのではなくて、一生しっかりと未来に引き継いでいきたいと。

この祭りを絶対なくしてはいかんのだと、そんな思いの中で今日、質問をさせていただいておるわけでありまして、今、財源の内訳等々を聞かせていただきました。総額で2,000万円を超える予算組みの中でしていただいております。

一方、そこで危惧する部分というのは、市からの補助金で1,300万円が出ているわけであり

ますけども、これから人口は減っていきます。市全体の税収も減っていきます。そういった観点は安易にわかる中で危惧しておるのは、サマーボール自体が、補助金が仮になくなったときに今のままで運営がしていけるのかと。

初めに言ったように、一生このまま続けていけるのかというところは一定危惧するわけがありますけども、これは例え話になります。

仮に補助金がなくなった場合、祭りが続けていけるのかどうなのか、ちょっと見解だけ、まず一点お聞かせいただきたいと思います。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）今現在実施しているサマーボールの形態を維持しようとするのが前提でありますと、補助金なくして現在のようサマーボールを継続することは難しいというふうに思っています。

○議長（土井裕美子君）14番 小西さん。

○14番（小西政宏君）ありがとうございます。

もうこれは誰が考えても普通にわかるわけで、そう思うわけですけども、これからやっぱりきっちり残していくためには、いい事例といえますか、しっかりとそういったところを取り組んでいっていただきながら前へ進めていってもらわなあかんと思う中で、ちょっとだけ事例だけ紹介させていただきたいので、映像だけさせていただきたいと思います。

ENJOY！りんくうということで、近い泉佐野市です。泉佐野市というのは、財政難で花火大会が当時なくなりました。財政厳しいよと言っていたときは全国で夕張市の次に厳しいという中で、今、財政再建を果たした、そんな町でもありましたけども、当時のうちの紀の川祭りと一緒に、財政難で約6,000万円規模の祭りをしていましたけど、それがなくなりました。

その後どうなったかという、なくなってから市民の力で復活させようということで、もう全く一般市民の方が動き出しました。当時、10

人だけだったそうです、集まった方が。

そこで、何とか動き出して、補助金に頼らず何とかお金を集めよう、知恵を絞って汗をかいやっていた中で、1年目は1,500万円お金が集まる中で、小さいながらも祭りをしたそうです。2年目については目標額に足らず、やむなく中止というふうな、非常に悔しい思いをしたということも聞いてきました。

これは実際、今年行われた写真であります。今現在どうなっているかと。もうどんどん規模が大きくなって行って、もう7,000発の花火が打ち上がるようになって、もう予算でも約4,000万円規模の花火大会となっています。

一定、今はふるさと納税も向こうは好調ということで、そこのお金も入ってはおるんですけども、どんなことになっているかという、約4万人ぐらい人が来ているというふうな格好になっています。

要は、言いたかったのは、補助金に頼らない祭りを1からつくり上げていっているということです。今はふるさと納税、後追いでふるさと納税が来ているわけですけども、ただ、これもいつまでも続けへんということはその実行委員会の方もずっと、かねがね言っていました。

どうしていくのということで、ずっと力を入れているのは、チケットをしっかりと売って収益を上げていこうということで、今でも約1,000万円ぐらいチケット収益で得ています。ただ単に敷敷を引いて有料席をつくらせてもらうだけではなくて、中には8,000円から1万円規模の座席を、有料席を売るんです。

中には、ベッドを敷いて、弁当、ビール配達しますよみたいな、そんな付加価値をしっかりとつけた、知恵を出したチケットもどんどん発売をしていって、収益をどんどん上げています。

何年前とかでいくと、何ぼ集まらなかったらもうこの花火開催しませんよというふうな、

そんな告知もする中で、何とか市民で汗をかい
て力を出して、お金をどんどんどん集めて、
今はもう2,000万円超えるぐらい自分たちで集
めるようになってきているみたいです。

花火はすごいきれいなんですけど、言いたい
ことは、予算が小さかっても、大阪といえば花
火の激戦区です。淀川も含めていっぱいある中
でも、今もう大阪府下で第4位と、これさまざ
まランキングはありますけども、今はそこまで
成長している、そんな祭りがあります。

では、その裏でどんなことが行われているの
よということなんですけど、やっぱり補助金に
頼らず、しっかりと市民で汗かいて広報してお
金を集めようということで、これ、とある風景
です。市民がどんどん集まってきて、駅前でチ
ラシ配ってお金を集める努力をします。

とあるショッピングモールでは、こんな主婦
の皆さんがどんどんかかわって発信をしてい
くと。気がついたら学生までが表へ出てきて、
このまちにこの祭りを復活させようと、そんな
うねりが起こってきています。こんな小さな子
どもたちもが表へ出て、お父さんお母さんと一
緒に、祭りを復活させよう、継続していこうと
なっています。

一方で、これマーブルビーチという花火の会
場となっているところですけども、夏であっても
冬であっても、月1回、みんなで自分たちのま
ちを守っていこうということでごみ拾いをど
んどんどん進めていっています。

これがどういう結果になったかということ、最
終、どんどんどん人が増えてきて、延べ、
当日会場のボランティアでいくと、もうほぼ
500人近い市民の方々がボランティアとして、
この祭り、このまちを復活させていくんやとい
うような思いで人が集まってきているわけ
であります。

ですから、本来、言いたいところは、補助金
があってもなくても、そこはどっちがいいの

か悪いかは別としてもなんですけど、しっかり
そうやって知恵を出してお金を集めていくと
いうような、そんな風土づくりというか、そう
いった祭りの形が、本来これから一生続けてい
けるようなまちの姿であるのではないのかと
いうのは、一点思います。

そういったところ、部としてどういうふう
にめざしていくおつもりなのか。これは一参考事
例ですけども、その辺、まず1回見解をお聞き
したいと思います。

○議長（土井裕美子君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）もちろん、サマ
ーボール実行委員会、それから事務局を担って
いる団体、それから私たちも含めて、今ある経
費の中でもできるだけ有効に活用するという
意識は絶えず持ちながら、お金を使わせていた
だいています。

そういった中で、補助金の今後ということ
で言いますと、市の財政状況等を考えた場合、必
ず減らしていくということもあり得るとい
うことを、この事務局の反省会の中でも意見を交
わし合いました。

そういった中で、実行委員会、それから事務
局として、何らかの形で財源を確保する取り組
みに目を向けていくということが非常に大事
であるということで、来年度開催のサマーボー
ルに向けて、そういった具体的な取り組みを、
他の事業と、例えばヘラブナ釣りをしていた
きながら、次、その夜に花火を見ていただく。

議員が先ほど来ご紹介いただいた、ああいつ
た、市民が一緒になって取り組めるような、そ
ういった形のサマーボールへというふう
に、やっぱりしていくべきだというふう
に思っていますので、そういうふう
に取り組んでいきたいというふう
に思います。

○議長（土井裕美子君）14番 小西さん。

○14番（小西政宏君）ありがとうございます。

1回、補助金で進めていっている祭りでもあ

るので、今後どういった形になっていくかは別として、そんな思いを持って進めていくというふうに強く答弁いただけたので、非常に安心しております。

祭りにおいて、目的というところはけんけんがくがく、お互いいろいろあるとは思いますが、今回、泉佐野市の実行委員の話聞いていく中で、すごい印象に残って、そこは観点、僕、一緒やなと思ったのは、やっぱりこの祭り、花火はもちろんきれいでいいんですけど、どこで見てもきれいはきれいですわ。

けど、本質的なところでいったら、やっぱり自分たちでこのまちの花火を復活させていかなあかんと。これ、言い換えると、市民力の話に置き換わってくると思えます。市民力というのは地域力であって、それはどういうことかという、自分たちの町のことを自分事化していつてるとい、ここがやっぱり最大の目的であったというふうに、言葉を聞いたとき、非常にじんと来るものがありました。

ですから、やっぱりそういったところを、本質、市民力をいかに上げていくのかというところ、今、答弁をいただいたと思えますけども、もうちょっとテーマも上げていきながらしていくことが、自分事に捉えることが、ほかの現場においてでも、市民の皆さんが自ら動いていく、それこそ協働の姿、橋本市の目指すところなんだというところを、もう一度、改めて進めていただけたらなというふうに思うわけでありますので、その点はお伝えさせていただきたいと思えます。

そうしたら、次になりますけども、今回、イベントとか、観光なのかイベントなのか、いろいろ議論はあるわけですけども、一方、普段見ている中で感じるどころとかがあります。

というのが、橋本市は非常にイベントが多いなと個人的には思う中で、職員が残業して、日々、本当にちょっと疲れが見えている顔の中

で仕事をこなされている場面って結構見たりします。頑張っておるのはわかるんですけど、ふと感じるときには、イベントイベントを、もうこなすことにちょっと手いっぱいになってしまっているのではないのかと。

そういった環境があるというのはもう仕方ないとは思いますが、でも、本来、今、サマーボール1個をもって、市民力というところ、本質のところは大事やでというのがあったと思うんですけども、サマーボールに限らず、ほかのイベントにおいたとしても、本来、何が大事で、どういったとこをめざしていこうよというのを、ずっと続いてきているイベントって、多分、ちょっと見失いかけているところもあるのかもしれない、仕事忙しいですから。

ですから、これから大事なところ、きっちり何が必要なのか、どういったところが本質的にしていかなあかんのかと見直しをかけていくというんですか、それってほかのイベントでも言えることはあるのではないのかなというふうに思ったりはするわけですけども、部長として、もし見解があればお答えいただきたいと思えます。

○議長（土井裕美子君） 経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君） 経済推進部で所管している大きな事業の一つに「まっせ・はしもと」という事業があります。この「まっせ・はしもと」という事業も10年来これまで経過しているわけですが、昨年度ぐらいから、市民の方から、実行委員の皆さんから提案の中で、柿祭りにしようというような提案がありました。

これまでもいろんなところでお話が出ていますが、橋本市民の方というのは、柿はもらうものであって買うものではない。「まっせ・はしもと」で、今まで柿を本気で売ろう、買ってもらうというような意識が全くない中で、市民の実行委員の方からの提案で、柿祭りにして、なおかつ柿をたくさん買ってもらうようなイ

ベントにしようというような動きが出てきました。

今年度、なんばスカイオ周辺で、この「まっせ・はしもと」にぜひ県外からたくさんの人を呼び込もう、それから、柿を買ってもらい、柿を売ろうというような動きを、農家の人たちも一緒になって取り組んでいこうよという、そういう機運が高まりました。

結果的に交通の大渋滞を起こしてしまって、されど、柿がたくさん売れて、たくさんの方に来ていただいて、橋本を知っていただく機会になったんですけども、農林振興担当者個々は目的をしっかりとって取り組んだということで、非常に充実した気分になったというふうな反省を、感想も含めて聞かせていただきました。

サマーボールも含めていろんな事業に取り組んでいる中で、職員の責務として、前任者やこれまでの歴史あるものを成功させるというのが最大限の取り組みではありますが、やはり、都度都度、市民の方からのそういった貴重な意見を反映できるように、また、私からたちからも、そういった斬新的な取り組みをしているような情報を収集しながら、市民の方と一緒に協働していくことが大事だというふうに思っています。

○議長（土井裕美子君）14番 小西さん。

○14番（小西政宏君）ありがとうございます。

本当に、年々「まっせ・はしもと」も、僕、今年においては実行委員会へ入らせていただいて、いろいろ議論している中で、ええふうにしていこうというふうな議論が生まれているのも聞いています。

本当、これ大事なことですので、ほかのイベントにおいても、ただこなすというだけではなくて、またこれから、部長率先して、その辺、見直しというか、していただければいいと思います。

そうしたら、小項目1といいますか、サマー

ボールのほうはこれで終わらせていただきまして、次、医療費のほうに入っていきたいと思います。

無償化についてなんですが、大きく四つあるんですけど、今回、お話ししたように、乳幼児医療と小・中学校の医療費のほうでお話ししていきたいなと思います。

まず、財源で、これ1億六、七千万円ぐらい、多分、年間、今のところ使っていたと思います。これも祭りのほうともそうなんですけども、観点としては、やっぱり税収が減っていく中で、安心してお子さんたちがいつでも医療を受けられるような体制というのは、絶対これから橋本市も担保していかなあかんという、その考えは全く一緒です。

ただし、一方では、さまざまなニュースとか報道とか聞いている中でもそうですけども、コンビニ受診と言われるものが非常に多いというふうに、報道でもいろいろ、社会問題となって聞こえてくるわけです。

コンビニ受診ってどういうことかということ、それこそ、ちょっとにきびができたから病院へ行ってみようかとか、ちょっと青たんができたから湿布をもらいに病院へ行ってみようかとか、ちょっとお子さんが鼻垂れているから、とりあえずもう薬をもらいにいってこかぐらいで、本当に軽度な状態の中で病院へ行くということが多くあると思います。

一点危惧しているのは、無料じゃないんです。これ全く無料じゃなくて、結局、税金で補っておるだけなので、そこというのは、この場所を通して市民にはっきりとお伝えしていきたいんですけど、全然無料じゃない。

結局、自分たちが払うとるだけなので、そこは認識をしっかりといただくことと、あと、税金というても、市単の税収もありますけど、基本的に借金が多分多いのかなと思います。

じゃ、これ無料とは言うけども、借金で無料

にしているだけで、結局金利がついて、将来、子どもたちが結局高いお金を払っとるだけなんです。

それがいいのか悪いのかというのは別として、と考えていったとき、やっぱりこの制度というのは、繰り返しになるけど、やっぱりきちんとこれからも維持していかなあかんと、そう思うわけです。

税収もどんどん減ってくるわけなので、これほんま、維持していくのも今後すごい危惧するなという中で、るるなりましたけども、部長にお聞きしたいのは、コンビニ受診と言われるような状況を、部長としてまず、あるのかなのか、ちょっとこれ難しいかもしれませんが、どういうふうに認識を持たれておるのか、一点、見解をお聞きしたいと思います。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）多分、以前にも決算委員会か予算委員会でも質問されていると思うんですけども、私も調査していないのでわかりませんが、この件についてはやっぱりないとは言いきれないと思っております。

○議長（土井裕美子君）14番 小西さん。

○14番（小西政宏君）ありがとうございます。僕も1億6,000万円のうちどれだけがコンビニ受診やねんと言われるとなかなか難しいところはではあるんですけども、一定そういうのがあるというのは認識をしていく中で、やっぱりきちんと抑制するところは抑制していかなあかんと思っております。

手段としては、ワンコイン、500円もらっていくとか、初めに定額制でもらて、2回目、3回目無料とかと、さまざまやり方はあると思うんですけども、全国で無償化に走っていると見えながらも、実は無償化から有料化にかじを切っているような自治体も多くあります。

その背景というのは、やっぱり、うちらと一緒に財政が厳しい、今後しっかり安心・安全に

医療を担保していかなくちやいけないとか、やっぱりどこかしら無料というところが走ってしまっってコンビニ受診を招いているという、そんな観点の中で、ワンコインとるような自治体がどんどんどんどん増えてきています。

とある市では実際、1年間ワンコインをとっていきましょうと。ワンコインというか、その自治体は、非課税世帯は今までどおりの無料です。だから、本当にお金がしんどいよという世帯においてはしっかりと安心、いつでも通えるのは担保しつつ、所得の多い方においては1回目400円、2回目400円、3回目から無料みたいな感じでしている自治体がありました。

そのまま1年間やってみると、どういった成果効果が出てきたかという、やっぱり金額ベースにおいても約23%ぐらい減したというふうな結果を聞いています。受診件数においても2割ぐらい減ってきたというふうな答えがもう出てきているわけでありまして。

なので、これが全てコンビニ受診であったのかという、必ずしも言いにくいとは思いますが、やっぱり、これからもこの制度をしっかりと守っていくためにも、ある程度どこかで線を引いていく必要って僕はあると思っております。

と考える中で、今すぐに橋本市としてワンコインとるとらんという答えを僕は今求めたいのではなくて、今後そういう状況になって、いきなりもうこれは制度厳しいよとなってから考えるのではなくて、そこは安易に見えてくるわけであるわけですから、仮に償還払いにしたらどれぐらい浮くのかなとか、ワンコインにしたらどれぐらいお金が、財源が浮いてくるかなと。その場合、職員は何人おって、プラスマイナスどういふふうな状況になっていくのかなというのは、もう今の段階からきちんと検討しておく必要があると思っております。ワンコインやるやらないではなくて、それを見

越したときに、しっかりと中で検討だけしていく必要ってあると思います。

その点については、部長、どういうふうにお考えでしょうか。

○議長（土井裕美子君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（吉田健司君）乳幼児医療につきましては、県の2分の1の補助があるということで2分の1の負担なんですけども、小中学生医療については全額市の負担ということで、これからすごく重たいお金になってくると思います。

その点で、議員、提案いただいたことについても、またほかに方法があれば、いろいろところで検討はしっかり前向きにしていきたいと考えております。

○議長（土井裕美子君）14番 小西さん。

○14番（小西政宏君）ありがとうございます。

さまざまやり方はあると思います。お金だけをとっていくというのも一つだし、県でやられている電話相談ですか、医療の相談。そっちをPRして行って、そっちをどんどん使ってもらうとか、これ多分やり方っていっぱいあると思うので、やっぱり持続可能に子どもたちの安心・安全を守っていくためにはそういったことを、今、部長からもしっかりと検討していくというふうに答弁いただいたと思いますので、今

後考えていっていただきたいと思います。

もうすっかりと言うていただけたので、これで終わりたいと思うんですけど、議会でも珍しく、これを削減せいというような質問をきょうはさせていただきます。すぐに削減できることではないと思いますけども、市長も一度また一緒に検討していただく中で、削れるところは削っていく、そんな提案も聞いていただけたらなと思います。答弁は結構です。

と思いますので、個人的には、それで浮いた部分というのは、また貧困の違った部分にきちり網をかけていくとか、また、個人的には、しっかりごみの回収を2回に戻す予算にしていくとか、しっかり削るところは削りながら適材適所でやっていけたらなと思いますので、今後ともまたそういったところ、相談に乗っていただきながら効率化をしていっていただきたいと思いますので、これで質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（土井裕美子君）14番 小西さんの一般質問は終わりました。

この際、午後2時15分まで休憩いたします。

（午後1時58分 休憩）